

# カンキツそうか病情報第1号（ウンシュウミカン）

令和6年3月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

近年、そうか病の発生量が多くなっています。  
伝染源の除去や適期防除を実施しましょう。

## 1 そうか病の発生状況

3月上旬に行った巡回調査（20ほ場）の結果、ウンシュウミカンにおけるそうか病の発病葉率は3.60%で、過去10年と比べて3番目に高い状況でした。また、発生ほ場率は30.0%で、前年と比較して下がりましたが、近年、高い水準で推移しています（図1）。

適期防除に努め発生量の低減を図りましょう。

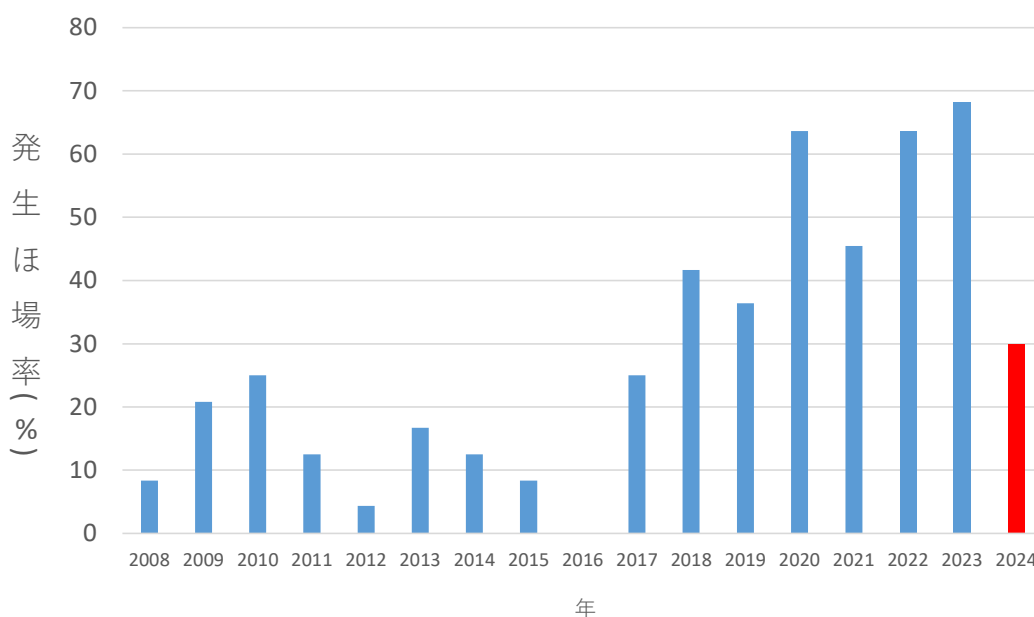


図1 カンキツそうか病における発生ほ場率の推移（3月上旬調査）

## 2 そうか病の防除対策

- (1) 病斑が多く形成された葉（図2）が第一次伝染源となるので、樹勢等生育に影響が出ない範囲で見つけ次第枝ごと除去しましょう。栄養生長が盛んな若い樹は感染しやすいので、重点的に観察しましょう。
- (2) 表を参考に防除を実施しましょう。若い葉（新葉）は本病に感染しやすいので、発芽期における防除を徹底しましょう。新葉以外に幼果も感染しやすいので、落弁期にも防除を実施しましょう。
- (3) 窒素肥料が多いと栄養生長が盛んになり、本病の発生が多くなるので、適正な肥培管理に努めましょう。



図2 いぼ型病斑が形成された葉

表 カンキツそうか病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード
デランフロアブル(※)	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン	M9
ストロビードライフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11
ナリアWDG	収穫14日前まで	3回以内	ピラクロストロビン ボスカリド	11 7
ナティーボフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11

※ 開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上あける。  
令和6年3月15日時点の農薬登録情報。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code\\_pdf01\\_2023.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2023.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。